


2 野 菜

項 目	作 業 内 容																						
<p>(1) 寒害と凍霜害対策</p> <p>(2) イチゴの管理</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <p>寒害と凍霜害対策</p> <p>イチゴの管理</p> <p>果菜類の草勢維持と病害対策</p> <p>露地野菜の管理</p> <p>凍霜害を受けた場合、早朝に散水して霜を除き、直射日光が当たらないよう、こもなどで日覆いし、2～3日間草勢の回復に努める。また、茎葉の一部が枯死すると腐敗病等が多発するため、適宜薬剤防除に努める(表1)。</p> <p>表1 野菜の生育適温と凍害</p> <table border="1" data-bbox="472 869 1362 1240"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>生育適温</th> <th>凍害を受ける温度</th> <th>障害の様相</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エンドウ</td> <td>10～20</td> <td rowspan="2">0</td> <td>・生育の進んだ後の低温で、軟弱な茎葉や幼莢の枯死</td> </tr> <tr> <td>ソラマメ</td> <td>15～20</td> <td>・肥大中の莢の表皮の色抜けや斑紋 ・落花や葉の油浸症状</td> </tr> <tr> <td>キャベツ</td> <td>13～20</td> <td rowspan="2">-2～-3</td> <td>・生育中期は最大葉の葉先や周辺の枯死</td> </tr> <tr> <td>ハクサイ</td> <td>15～20</td> <td>・結球期以降は、結球外葉の先端(結球頭部)の枯死・腐敗</td> </tr> <tr> <td>ハウレンソウ</td> <td>15～20</td> <td>-2～-3</td> <td>・葉の鮮緑が失われ硬化 ・葉がカール状になり商品価値が低下</td> </tr> </tbody> </table> <p>1月は最も気温の低い時期であり、温度管理に注意する必要がある。</p> <p>イチゴは低温に強く、-5～-6になっても株は枯死しないが、花は0以下の温度に遭遇すると、雌ずいの黒変や受精能力の低下により奇形果の発生が多くなる。また、低温条件では着色不良果や色ムラ果が発生しやすい。写真1 果実の肩部の着色不良</p> <p>特に、夜温が低いと果実の肩部の着色が劣り、肩部が着色するまで置いておくと、果実の先端部が過熟となって品質を低下させるため、適切な温度管理を行う(写真1)。</p> 	種類	生育適温	凍害を受ける温度	障害の様相	エンドウ	10～20	0	・生育の進んだ後の低温で、軟弱な茎葉や幼莢の枯死	ソラマメ	15～20	・肥大中の莢の表皮の色抜けや斑紋 ・落花や葉の油浸症状	キャベツ	13～20	-2～-3	・生育中期は最大葉の葉先や周辺の枯死	ハクサイ	15～20	・結球期以降は、結球外葉の先端(結球頭部)の枯死・腐敗	ハウレンソウ	15～20	-2～-3	・葉の鮮緑が失われ硬化 ・葉がカール状になり商品価値が低下
	種類	生育適温	凍害を受ける温度	障害の様相																			
エンドウ	10～20	0	・生育の進んだ後の低温で、軟弱な茎葉や幼莢の枯死																				
ソラマメ	15～20		・肥大中の莢の表皮の色抜けや斑紋 ・落花や葉の油浸症状																				
キャベツ	13～20	-2～-3	・生育中期は最大葉の葉先や周辺の枯死																				
ハクサイ	15～20		・結球期以降は、結球外葉の先端(結球頭部)の枯死・腐敗																				
ハウレンソウ	15～20	-2～-3	・葉の鮮緑が失われ硬化 ・葉がカール状になり商品価値が低下																				

項 目	作 業 内 容
<p>(3) 果菜類の草勢維持と病害対策</p>	<p>ア 加温ハウス 土耕の加温ハウスでは最低気温を5 程度で管理している例が多いが、着色しにくい品種では、最低気温を7～8 程度に保つようにする。また、高設栽培では、培地温度が気温の影響を受けやすいため、最低気温を8 に保つとともに、架台の下部をスカート状にビニールで覆うなどし、培地温の確保に努める。</p> <p>イ 無加温ハウス 暖房機が無いハウスで二重被覆をした場合の保温力は、気象条件や保温方法によっても異なるが、気温が低い場合、外気温との温度差は3～4 とされている。</p> <p>しかし、サイドビニール付近では外気温に近い程度まで低下するため、外気温が0 以下になるようであれば、両サイドの畝にビニールトンネルを行うなどして保温に努める。また、ビニールのつぎ目や破損箇所からのすきま風は、保温効果を低下させるので、速やかに点検補修を行う。なお、家庭用暖房機（石油ストーブなど）を用いている事例も見受けられるが、ガス障害や火災の恐れがあるため、十分な注意が必要である。</p> <p>ウ ハダニ類の防除 ハウス気温が高い場合、越冬するハダニ類が多くなることが予想される。特にナミハダニ（写真2）の発生が多く、赤いカンザワハダニと異なり、淡黄緑色のため、気付きにくく被害の拡大につながりやすい。葉がカスリ状や白っぽくなっていればハダニ類の発生を疑い、葉の表裏をよく 写真2 ナミハダニ 観察して寄生が見られた場合は早期に防除する。また、天敵昆虫を導入している場合は、化学農薬の影響にも留意する。</p> <p>今後、気温や日照量が最も低下する時期となるため、ハウス内温度の確保や摘果等による着果負担の軽減、こまめな施肥・灌水等により草勢を落とさないよう管理する。また、気温の低</p>



写真2 ナミハダニ

項 目	作 業 内 容
<p>(4) 露地野菜の管理</p>	<p>下に伴いハウスを締め切ることが多くなるため、多湿による灰色かび病の発生に注意する。定期的にハウスの換気を行うほか、発病果や被害葉は、発見次第取り除くとともに、発生初期の防除に重点を置く（写真3）。</p> <div data-bbox="975 275 1382 510" data-label="Image"> </div> <p>写真3 灰色かび病 (左:イチゴ、右:トマト)</p> <p>ア レタス レタスの生育適温は、茎葉の生育期が20 前後、結球期は10～15 である。1～3月にかけて収穫するトンネル栽培のレタスは栽培期間中の気象変動の影響を受けやすく、暖かい日が続くと生育が進み、予定より早く結球する。また、トンネル内気温が25 を越えると球の締まりが悪くなったり、変形球が発生しやすくなることから、こまめなトンネルの開閉を行い、適切な温湿度管理を実施する。</p> <p>イ タマネギ タマネギは、一定の大きさに成長した株が低温に遭遇することで花芽が分化し、その後抽台する性質がある。一般に、大苗を植えた場合や暖冬により生育が進んだ場合に抽台しやすい。また、冬季の肥料切れも花芽分化を助長するため、追肥を施用し抽台の防止に努める。中～晩生品種では、1月上～中旬頃から追肥を開始し、20～30日おきに3回（1回当たり窒素成分で3～4kg/10a）施用する。</p> <p>ウ ソラマメ 順調に生育している圃場では、分枝が大きく生長している。春先以降、適期に誘引作業が行えるよう1月下旬より支柱立て等の準備を行う。1条L字仕立ての場合、東西畝では北側に、南北畝では西側に、株の中心から15cm程度離して地面にしっかりと支柱を立てる（写真4）。支柱は5株ごとに立て、マルチ面から5cm程度の高さに1段目のひもを張る。</p> <div data-bbox="943 1480 1366 1798" data-label="Image"> </div> <p>写真4 ソラマメの誘引準備程度離して地面にしっかりと支柱を立てる（写真4）。支柱は5株ごとに立て、マルチ面から5cm程度の高さに1段目のひもを張る。</p>

（作成 農林水産研究所）